

中京社保協ニュース

No.2 2021年7月7日

京都市中京区壬生下溝町 51-57 エプロンホール 2F TEL 406-6370 FAX 406-6371
中京社保協 mail address nakagyochikuro@gmail.com

中京区東部で初の食材支援 123人の来場者が「助かる！」と語る



(開始2時間前から列ができて)

て、思い思いに好きな食材を手にとって実行委員会が用意した袋に詰めていました。

会場でのアンケートでは、2人の子どもを連れて初めて参加された30代のシングルマザーは「パートで仕事の時間が減って、収入が半分以下になってしまった。1年以上がんばってきたが、もう限界にきている。食料をいただいて大変助かります」と切々と答えてくれました。

また、90歳になるお年寄り「心臓病でまち医者にかかっているが、コロナが怖くて行けなかった。ワクチンを打ってもらってやっと医者に行けるようになった。



(親子連れもパンやお菓子を袋へ)

が協力いただきました。その内訳は年代では10代が3人、20代が7人、30代が8人、40代は8人、50代は6人、60代以上が11人で最高齢は90歳でした。

地域では中京22人、右京6人、左京5人、上京・東山・西京が各3人、山科2人と市内の各地域から幅広い年代の方が来場されたことが示されています。

6月27日(日)、中京社保協・中京地区労など14団体でつくる実行委員会が、中京東部で初となる食材支援&なんでも相談会を開催しました。

会場となる新日本婦人の会中京支部周辺には、午後1時開会予定で準備するボランティアにまじって、2時間も前から学生や子ども連れの親子が並びはじめ、30分繰り上げてのスタートとなりました。

食材提供では300kgのお米もみるみる来場者の手に。缶詰やパン、カップラーメン、生理用品などは途中で買い出しに走るほど好評で、2時間半で123人の方が来場し



(野菜もたくさん用意しました)

減るばかりの年金で苦労している」と、コメと食材を抱えていました。卓球部に所属する4人の短大生は「部活はできているが、対面授業がなくて悲しい。食料品や生理用品の提供はうれしい」と笑顔でまわっていました。当日のボランティアは弁護士によるなんでも相談をはじめ37人が協力し、来場者から喜ばれました。

青年を中心に取り組んだアンケートには44人の方

